

中国少数民族の国内連携は可能か

一月八日、中国四川省アバ・チベット族チャン族自治州アバ県で、チベット族の男性と僧侶の二人が、男性はダライ・ラマ法王のチベット帰還を求めるスローガンを叫んだ後、それぞれ焼身自殺を図り、僧侶は死亡し、男性は人民解放軍兵士が消火器で火を消し止め、連行された。昨年3月以来の同地方でのチベット族僧侶らの焼身自殺は計十四人となった。

昨年はい自殺のみの報道だったが、今年に入り、自殺をきっかけに住民と治安当局の衝突が起っている。

同じ一月八日未明、中国青海省ゴロク・チベット族自治州達日県で、活仏として知られるチベット仏教の高僧他二人が信仰や言論の自由を訴えた後、焼身自殺した。数百人の住民は、高僧の遺体引渡しを求め警察署に押し掛け、窓や扉を破壊した。

一月二十三日、中国四川省カンゼ・チベット族自治州ダンゴ県で、僧侶の焼身自殺を予告する貼り紙を見て集まった住民と警官隊が衝突、住民一人が死亡、一人が負傷。

一月二十四日、中国四川省カンゼ・チベット族自治州色達県で住民と警察が衝突し、住民一人が死亡一人が負傷、警官十四人が負傷し、住民十三人を逮捕した。

一月二十六日、中国四川省アバ・チベット族チャン族自治州壤塘県で、住民と警察や治安部隊が衝突し、警察が発砲し住民一人が死亡、多数が負傷した。

チベット人居住地では、他にも騒擾が起きていている可能性があり、治安部隊には発砲許可が出ている。今年三月十日は、一九五九年の「ラサ蜂起」から五十三回目の記念日で、この日に向かい抗議行動が激化してゆくことは必至である。

またウイグル人居住地でも重大かつ不可解な事件が起き、緊張が続いている。

米政府系放送局「ラジオ・自由アジア」によれば、昨年十二月二十八日、中国新疆ウイグル自治区ホータンで、宗教弾圧を逃れるため国外脱出を図ったウイグル人男女七人が警察に射殺されたという。しかし地図を見れば明らかのように、ホータンはタクラマカン砂漠南縁に位置する内陸都市で、航空機以外には国外への脱出方法はない。国营通信社・新華社はテロ絡みの事件として報道したが、事実は何なのか。

「産経新聞」はこれら事件を背景に、「チベット族の抗議行動が続発／ウイグルへの飛び火警戒」（二月一日付）と題する記事を掲載した。チベット人とウイグル人の居住地、そして南モンゴル人の居住地は互いに隣接し、かつ漢族を包囲する形になっている。三民族間に連絡が生ずるのは自然の勢いである。彼らは地の利を生かせるかどうか。中国公安はこれを阻止し続けることができるかどうか。罅迫り合いが続く。

（平成二十四年二月二日）

政治学者 殿岡昭郎